



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 178 July. 1. 2024

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (有) アジマプリント



尾瀬水芭蕉の群落 P11トピックス参照

目次

○令和6年度支部通常総会 支部長・新役員の挨拶	今津英一朗	2	○東海支部蔵書からの一冊39	石田文男	19
○令和5年度事業報告		4	○登山用具あれこれ⑫	千葉泰丈	20
○令和6年度事業計画		5	○委員会報告 ボランティア		21
○令和6年度役員		7	○東南アジア・インド紀行 I	田中 進	22
○令和6年度組織図		8	○名作の舞台を訪ねて(1)	村中征也	25
○第10回夏山フェスタ2024報告	今津英一朗	9	○同好会コーナー		26
○熊野古道奥駈道の踏査	今津英一朗	9	○支部友コーナー		27
○上高地一楽しい歴史話(2)	和田豊司	12	○会務報告	今津英一朗	28
○雪崩対策講習会報告	林須美子	15	○ルーム日誌・会員異動	今津英一朗	33
○山行委員会だより	稲葉真英	16	○INFORMATION	星 一男	
			○編集後記		

令和6年度支部通常総会 支部長・新役員の挨拶

総務委員会委員長 今津 英一郎

令和6年度支部通常総会

令和6年度の東海支部通常総会は2024年5月12日(日)14時30分よりOMCビル4階講堂にて開催された。

3月31日付け会員327名に対し、当日参加37名、105名の委任状、38名の事前議決行使があり合計180名の参加により総会は成立した。

第一号議案から四号議案について高橋支部長(議長)進行による審査、承認が得られた。



支部長による進行

また、総会後は各委員会報告、第15次インドヒマラヤ遠征隊の計画報告が行われ懇親会へと続いた。



第15次インドヒマラヤ遠征隊の計画報告



懇親会

支部長あいさつ

高橋 玲司

令和6年度のスタートにあたりご挨拶をさせていただきます。

3年にわたり人類を苦しめ、活動自粛が余儀なくされた新型コロナウイルスも、インフルエンザと同じ5類となり、従前の取り組みとなりました。活動も以前同様に増え支部員皆さんも山で集える事の楽しみを実感しているのではないのでしょうか。一方コロナに向き合う生活で『新しい生活スタイル』へと社会は随分加速度的に変化しました。当支部もウェブ併用など、時



代への対応も模索しながらの活動をしていただきたいと思います。

昨年度を振り返りますと、非常に多くの活動を実施していただきました。社会的弱者に対する各種のボランティア委員会による支援登山、第7期を迎えた登山学校、遭難防止活動を実践する遭難対策委員会、安全登山の啓発に向けた各種取り組みを実施されている技術向上委員会、初心者の入門から始め一大勢力となった支部友委員会、猿投山で活発に活動する森づくりの会、自然保護委員会、会員の趣向を鑑み活動を行うアルパインクラブ、トレッキングクラブでの活動、支部友会ははじめ会員獲得の原動力となる夏山フェスタの支援、東海学生山岳連盟と東海支部がコラボした御在所フェスティバルの実施、高齢者に向けた

亀の会の登山活動などなど実に数多くの活動をいただきました。手前味噌になりますが、アルパインクラブという選択肢は、ロープクライミングやバリエーション志向の会員醸成に大きく貢献し、会委員数も着実に増えています。支部員のニーズを鑑みた取り組みを工夫されると良いと思います。

さて支部運営を考えると、今後の課題は二つあります。一つは会員数の減少。私が支部長に就任してから、会員数が微減傾向にあります。7年前364名いた会員数は昨年度の331名⇒今年度327名になりました。傾向としては入会人数も多いが退会も多い状態が続き、会員番号の若い方が辞めていきます。やめていく人を食い止めれば、東海支部はまだまだ会員数の減少に歯止めがかかります。歯止めをかけるにはどうしたら良いか。【支部の活性化】が必要です。各委員会に加入し、委員会活動を充実する。各委員会同士の横の交流を実施する。他支部や本部との交流を行う事も重要です。私も全国支部懇談会や、全国古道集会に参加しましたが、楽しい交流に

新任挨拶 亀の会 代表

鈴木 慎吾

今年度亀の会代表を務めさせて頂くことになりました。

今までまったく亀の会にはかかわっておらず、ほとんど実情を分からずに引き受けたので、少々不安を抱えての出発でした。携わって半年たちますが、私の想像を超え、会員の皆さんが元気に精力的に活動してみえるのに驚かされたというのが第一印象です。

月一回の月例山行を始めとして、会員相互で企画する自主山行、自然の中を歩く「歩こう会」など月に数回の行事を活発に実施しています。その他にも傘寿、米寿、卒寿の「お祝い山行」などがあります。

現在52名の会員が在籍していますが、いずれの行事も20名前後の参加者があり、皆さん



もかかわらず東海支部からは数人のみで、支部の規模から考えても著しく少なく、活性化に向けて、活動を周知する事が重要です。皆さんが広く楽しめる取り組みの一つでも多く作り活性化していただきたいと思います。

もう一つは【財政の健全化】です。昨年度の赤字傾向は引き続いており、見直しも開始します。郵送費の高騰から本部も電子化に舵を切ります。支部報の電子化をはじめ検討する事も多くあります。今までは寄付や収益事業もあり、支部にも余力があって何とかやってきましたが、今後はそうはいきません。赤字体質であった支部収支を抜本的に見直し赤字化を食い止めるべく、持続可能な支部を目指します。

見直せるものは見直し、より活性化された支部を目指し、今年度は重要な年度になると思います。より楽しく過ごせる支部ライフを充実できるような支部を皆さんと作っていきたくと思います。皆さんの英知をお聞かせいただき改善していきましょう。

積極的に参加されています。いくつになっても元気で活動してみえることに驚かされると同時に「私もまだまだ老けてはられないぞ!」と、今では自分自身にも励みになっています。

他支部にはほとんど見られない東海支部では欠かすことが出来ない組織です。この会がいつまでも続くよう、微力ですが少しでもお力になればと考えています。

東海学生山岳連盟 委員長 山下 大貴

こんにちは。東海学生山岳連盟の新委員長の山下大貴です。よろしくお祈いします。今年のゴザフェスでは、学生主体の運営をできるよう努

めさせて頂きたく思います。また、昨年はあまり出来なかった学連の大学での合同山行を多く出来るように企画したいと考えています。1年間よろしくお祈いします。



東海支部令和5年度事業報告

期 日	内 容	担 当
I 公益目的事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
随時開催	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
通年	せと環境塾とのタイアップ講座 12回	猿投の森づくりの会
随時開催	森の研修会（わいがや講座）	猿投の森づくりの会
通年	森の調査（プロット調査、標本木の胸高直径調査）	猿投の森づくりの会
11～3月	なごや環境大学とのタイアップ講座 4回	猿投の森づくりの会
(2) 児童・青少年の育成事業		
6月 中止	たんぼぼ登山（身柄付き補導委託登山）	ボランティア委員会
10月	たんぼぼ登山（身柄付き補導委託登山）	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	東海学生山岳連盟・支部
5月	知的障がい者支援登山（SON・愛知支援登山）	ボランティア委員会
10月	知的障がい者支援登山（SON・愛知支援登山）	ボランティア委員会
11月 2回	親と子のふれあい登山教室（尾高山）	ボランティア委員会
11月	幼稚園児の森体験（森の探検隊）	猿投の森づくりの会
(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業		
6月	夏山フェスタ	夏山フェスタ実行委員会
7月	登山学校 第7期開校	登山学校運営委員会
8月 11日他	「山の日」啓発活動	「山の日」事業委員会
(4) 事故防止事業		
通年	メール・FAX（書面）による登山届の提出の促進 ハイグレード登山計画審査	遭難対策委員会
随時	チェンソー安全講習受講	猿投の森づくりの会
随時	安全登山啓発のための情報「安全登山教室」を発信	技術向上委員会
随時	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会
7、3月	気象講習会の開催	遭対・登山学校委員会
(5) 山岳環境保全事業		
通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
通年	JAC山桜フィールド整備 炭作り	猿投の森づくりの会
通年	植生等保護作業（調査・マーク・保護処置作業等）	猿投の森づくりの会
通年	林道整備（沿道草刈・路面整備・枯死木処理など）	猿投の森づくりの会
通年	せと環境塾（豊かな自然、自然循環を理解。瀬戸市の講座）	猿投の森づくりの会
5月～10月	モニタリング1000の動物調査 環境省の委嘱 猿投の森の動物調査	自然保護委員会 自然保護委員会
(6) その他目的を達成するための事業		
5月 中止	春のブラインド登山（視覚障がい者支援登山）	ボランティア委員会
11月	秋のブラインド登山（視覚障がい者支援登山）	ボランティア委員会
年4回実施	視覚障がい者との親睦登山（ひまわり山行）	ボランティア委員会
期 日	内 容	担 当
II. 共益事業		
年6回	支部友ミーティング	支部友会
毎月3～5回	支部友山行 計画76回 実施63回 参加人数延べ413人	支部友会

期 日	内 容	担 当
Ⅱ. 共益事業 (つづき)		
年間 60 回程度	支部定例山行 計画 61 回 実施 39 回 参加人数延べ 209 人	山行委員会
毎月 1 回	亀の会 月例山行 実施 10 回 参加人数延べ 184 人	亀の会
随時	自主計画山行 実施 5 回 参加人数延べ 79 名	亀の会
随時	歩こう会 実施 2 回 参加人数延べ 36 名	亀の会
月 1 回	定例山行	トレッキングクラブ
月 2 回	定例山行	アルパインクラブ
4・6・8・10・12・2・3 月	委員会及び山の写真教室	写真展実行委員会
5・10・11・3 月	写真撮影山行 4 回	写真展実行委員会
その他活動		
支部報編集委員会		
支部報 年 4 回発行 NO.173 (4 月) NO.174 (7 月) NO.175 (10 月) NO.176 (1 月)		

総務委員会

支部ガイド 2023 年 7 月発行、常務委員会 毎月第 4 水曜日
 支部長、副支部長会議 毎月第 3 木曜日、支部通常総会 2022/5/14 開催
 通年 メルマガ「東海支部ガイド」配信

デジタルメディア委員会

通年 支部山行申込システムの管理
 通年 ホームページによる情報発信

図書委員会

通年 支部蔵書紹介および蔵書管理 蔵書受け入れ

装備委員会

通年 装備委員会で共同装備などの管理および装備講習会の実施
 日本山岳会百二十周年事業「山岳古道調査」
 通年 日本山岳会 120 周年企画 調査

令和 6 年度事業計画

期 日	内 容	担 当
I. 公益目的事業		
(1) 登山に関する文化・学術の振興事業		
毎月 1 回	猿投の森 自然観察会	猿投の森づくりの会
7 月～9 月	森の研修会 (緑陰講座)	猿投の森づくりの会
通年	わいがや講座 (環境、自然、生物多様性、SDG s の研修)	猿投の森づくりの会
年 1 回	森の調査 (プロット調査など)	猿投の森づくりの会
11 月	森づくり体験 (法人デー)	猿投の森づくりの会
(2) 児童・青少年の育成事業		
年 2 回	SON 愛知・山岳会と一緒に登山 (知的障がい者との登山)	ボランティア委員会

年2回	たんぼぼ登山(身柄付き補導委託登山)	ボランティア委員会
9月	御在所フェスティバル	東海学生山岳連盟・支部
10・11月	親と子のふれあい登山教室(自由ヶ丘幼稚園児との登山)	ボランティア委員会
11月	森の探検隊(幼稚園児森林体験) 猿投の森	猿投の森づくりの会

(3) スポーツ及び登山に関する教育・啓蒙事業

6月	夏山フェスタの主催協力	夏山フェスタ実行委員会
7月	登山学校 第8期開校	登山学校運営委員会
8月11日他	「山の日」啓発活動	「山の日」事業委員会

(4) 事故防止事業

通年	メールによる登山届の提出の促進	遭難対策委員会
随時	チェーンソー・刈り払い機・取り扱い訓練	猿投の森づくりの会
随時	チェーンソー取り扱い安全講習 受講促進	猿投の森づくりの会
随時	安全登山啓発のための情報提供と、視野拡大のための講演会	技術向上委員会
随時	遭難予防講習会 山岳救助訓練などの開催補助	遭難対策委員会
随時	山の天気講座(春)、装備講座(夏・冬)の開催	遭対・登山学校委員会

(5) 山岳環境保全事業

通年	猿投の森及び東大演習林における森づくり	猿投の森づくりの会
通年	JAC山桜フィールド整備(炭焼き体験、シイタケ栽培等)	猿投の森づくりの会
通年	林道整備(沿道草刈・路面整備・枯死木処理など)	猿投の森づくりの会
10月～3月	なごや環境大学 タイアップ講座	猿投の森づくりの会
通年(1回/月)	せと環境塾。豊かな自然・循環を理解。瀬戸市タイアップ講座	猿投の森づくりの会
5月～9月	モニタリング1000の動物調査 環境省の委嘱	自然保護委員会
	猿投の森の動物調査	自然保護委員会
	上山路川遡行	自然保護委員会

(6) その他目的を達成するための事業

5月	春のブラインド登山(視覚障がい者との登山)	ボランティア委員会
11月	秋のブラインド登山(視覚障がい者との登山)	ボランティア委員会
年3～4回	支部員視覚障がい者との登山(ひまわり山行)	ボランティア委員会

期 日	内 容	担 当
II. 共益事業		
月2回	バリエーションクライミング、技術講習会(実地)	アルパインクラブ
5月	GW合宿	アルパインクラブ
6月	韓国合宿	アルパインクラブ・支部
夏季	夏季合宿	アルパインクラブ
11月	全国ユース交流会(九州)	アルパインクラブ
冬季	冬季合宿	アルパインクラブ
春季	春季合宿	アルパインクラブ月2回
5月11日	支部通常総会	総務委員会
年6回(隔月)	支部友ミーティング	支部友会
毎月3～5回	支部友山行	支部友会
年間60回程度	支部定例山行	山行委員会
毎月1回	月例山行	亀の会
随時	自主山行	亀の会
随時	歩こう会	亀の会
月1回	トレッキングクラブ 定例山行	トレッキングクラブ

II. 共益事業 (つづき)

毎月1回	委員会及び写真教室開催	写真展実行委員会
随時	写真撮影山行	写真展実行委員会
2025. 2. 24~3. 2	第19回東海岳人写真展 名古屋市市民ギャラリー栄	写真展実行委員会
1月19日	支部新年懇親会	総務委員会
4回/年	支部報第178号 179号 180号 181号	支部報編集委員会
6月	夏山フェスタ	総務委員会
秋季	猿投の森づくりの会 20周年記念事業	猿投の森づくりの会
9月	第15次インドヒマラヤ登山隊派遣	海外登山委員会 インドヒマラヤ小委員会

令和6年度役員

は前年からの変更。枠なしは重任

支部長	高橋玲司						
副支部長	今津英一朗	前田隆久	服田康宏				
監事	市川義行	榑 将美					
常任評議員	尾上 昇						
評議員	大口瑛司	片岡泰彦	杉田 博	野呂邦彦	横田明信	天野俣明	
	佐野忠則	瀧根正幹	毛利邦男	石井 仁			

常務委員会

総務委員会

会計

岳連担当

支部友委員会

山行委員会

亀の会

猿投の森づくりの会

トレッキングクラブ

アルパインクラブ

支部報編集委員会

登山学校運営委員会

自然保護委員会

海外登山委員会

ボランティア委員会

支部刊行物編纂委員会

遭難対策委員会

技術向上委員会

写真展実行委員会

東海学生山岳連盟

120周年事業「山岳古道調査」

委員長

今津英一朗

奥山千佳

鈴木絵美子

金谷正起

稲葉真英

鈴木慎吾

和田豊司

服田康宏

高橋玲司

星 一男

服田康宏

石原俊洋

山田利行

前田隆久

星 一男

高松信治

清水克宏

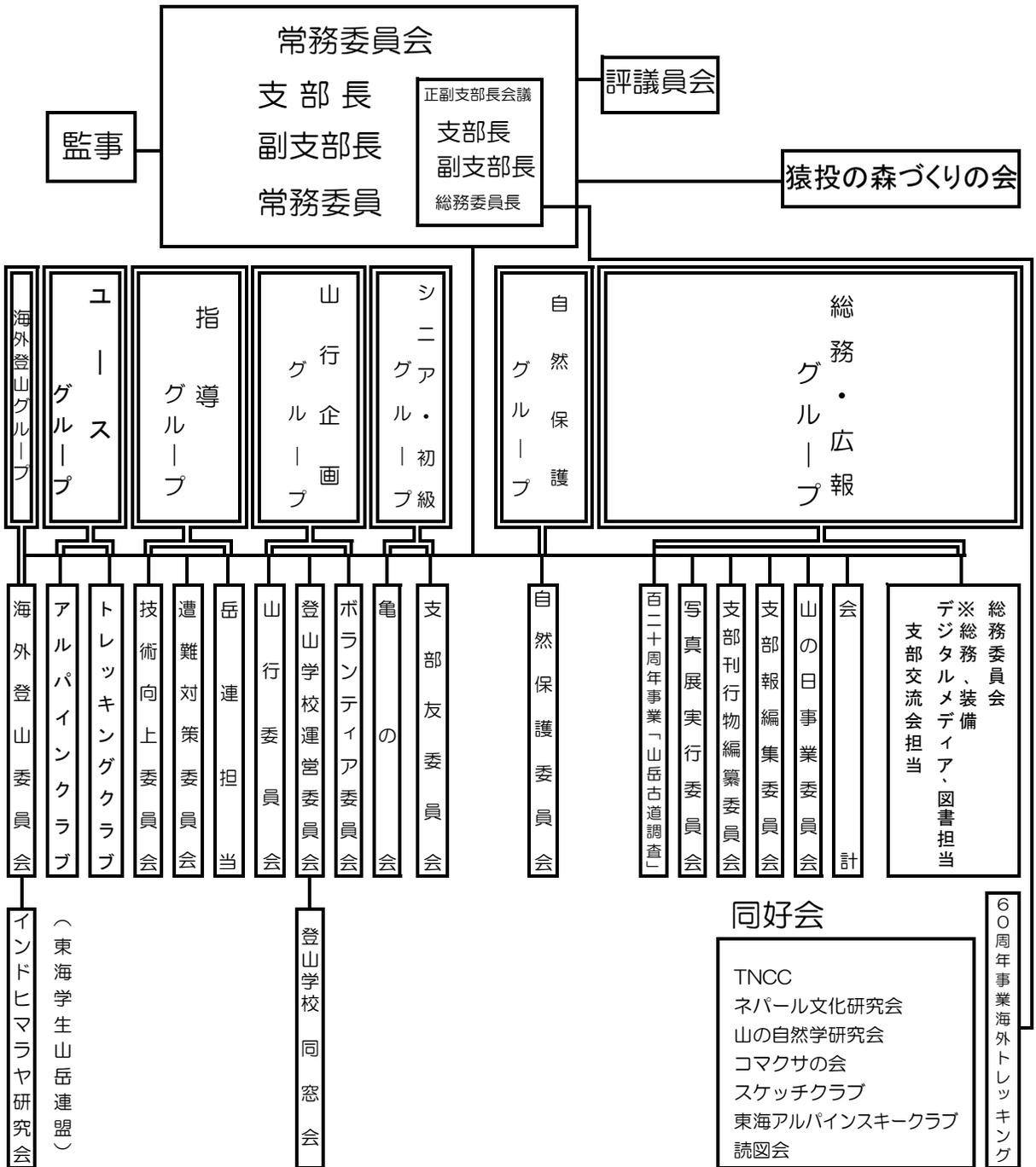
岩月邦文

山下大貴

西山秀夫

令和6年度組織図

総 会



正副支部長会議はチャレンジ基金などの使途を含めた支部業務全般の調整をする。
山岳救助隊は必要に応じて設置される

第10回夏山フェスタ開催

副支部長 今津 英一朗

今年も2024年6月8日(土)、9日(日)名古屋ウインクあいちにて、夏山フェスタが開催された。2日間の来場者は、およそ6000名を数えた。

山に関係の深い行政、山小屋、登山用具メーカー等が一同につどい、登山用具に関わる展示がおこなわれるとともに、セミナーが行われた。

セミナーでは8000m峰14座登頂者の竹内洋岳氏を始め、多くの登山家が講演を行った。この中の一人に今回、橋本 J A C 会長が講師として出演している。橋本会長には、来年の支部の新年会への出席を依頼している。

また、今回は、第10回という事で、東海支部の企画による「登山道具の今と昔」と題した特別展示を行った。



セミナー (講座)



賑わう会場風景

東海支部は夏山フェスタ実行委員会の一員として、ボランティア参加している。各委員会から、受付、セミナー・会場アナウンスの役割を担うとともに、支部友会、登山学校、アルパインクラブへの入会を勧誘した。

多数の来場者があり、コロナ禍からの脱却が加速していることを感じることができた。

日本山岳会 120 周年事業

令和 6 年 5 月熊野古道奥駈道の踏査

総務委員会委員長 今津 英一朗

令和 6 年 5 月 18 日 (日) に日本山岳会本部主催の熊野古道イベントに合せ、集中山行が行われた。東海支部からは H コース (支部単位の参加) として以下の 3 パーティーが参加エントリーした。

① 稲葉 真英 (山行委員会委員長) 単独

奥駈南部の踏査 (予定通り完登)

5/1 太尾登山口 14:00~釈迦ヶ岳~16:50 深仙の宿 (小屋泊)

5/2 深仙ノ宿 5:10~持経宿~15:10 行仙宿 (小屋泊)

5/3 行仙宿 5:00~13:20 玉置神社駐車場 (テント泊)

5/4 玉置神社駐車場 4:40~13:15 大斎原

— 稲葉 感想 —

集中登山に先駆けて古道調査の東海支部ミッションとして大峯奥駈道南部踏査を担当し、単独ではあったが、予定どおり遂行す



熊野川を渡渉

ることができた。南半分ではあったが、完歩できた感慨はひとしおであり、思わず熊野川も橋へ迂回せず渡渉してしまった。行仙宿で接待していただくなど新宮山彦グループ様には多大なご協力をいただき感謝を申し上げたい。

② 高橋 玲司支部長（※草野駿希（欠席））

吉野⇒熊野大社（玉置神社エスケープ）

5/15 吉野(0:00)～釈迦ヶ岳手前 小笹の宿 (22:10 歩行)

5/16 小笹の宿～楊子ヶ宿小屋 (16:50 歩行)

5/17 宿～行仙小屋 (15:30 歩行)

5/18 行仙小屋～玉置神社 (11:50 歩行)

※時間切れリタイア

—高橋感想—

参加者が無く自分一人となったが、途中同志ができた。予定どおり大斎原へゴールしたかったが、初日で腰痛を発症し、時間制限が有る中で、到達が難しくなった。のんびりと歩いたが、同じような山容で90kmも歩くと意識が遠のいた。

参考：yamap ログ

<https://yamap.com/activities/31844695>

八経山ピークにて →



新宮山彦グループ沖崎代表と持経宿にて



③ 清水 克宏（技術向上委員会委員長）、中野 徳子、花田 玲子、(サポート)今津 英一朗
(予定通り完遂)

5/18 玉置神社 4:30⇒熊野大社 13:00

—メンバー感想—

本ルートは初めて歩きました。標高が下がるにしたがって植生が変わっていく様子や、ツツドリやホトトギスなどの夏鳥やハルゼミの鳴き声を励みに楽しみました。

修験者さんのお札など、奥駈ならではの古くからの文化に触れることができたのも貴重な経験でした。また、集中登山という形態は初めてでしたが、大斎原に疲れた足取りながらも笑顔で集まっていらっしゃる皆さんの姿を見てとても気分が高揚いたしました。何より山在峠で新宮山彦グループの皆様へ振る舞いを頂き、お腹も心も満たされました。有難うございました。大峰奥駈の続きを歩こうと思いを新たにいたしました。(中野 徳子)

5月17-18日と熊野古道奥駈道参加させていただきました。かねてから、歴史に思いを馳せて歩く熊野古道の縦走に行きたいと思っており、参加出来て感無量です。

もっと荒れた道を想像しておりましたが綺麗に整備されており驚きました。

同じコースを歩く仲間が合流する楽しみはかないませんでしたが、自分がペースを崩さず、完歩できる事に集中できました。また、新宮山彦グループ様のもてなし、嬉しかったです。水は十分持ったつもりではありましたが、冷えたお茶が本当に美味しかったです。

山から降りて穏やかな川が間近に見えた時、ドボンしたく、ゴールしてから早速足を入れに行きました。(花田 玲子)



新宮山彦グループのご接待、多摩支部の皆さんと

熊野古道集中山行お疲れさまでした。新宮山彦グループや多摩支部などと交流したり、名刺交換したりでき大変有意義でした。長大な奥駈南部ルートを守っていらっしゃる山彦グループの活動にはあらためて敬服しました。皆さまありがとうございました。

(リーダー清水 克宏)



奥駈道を進む



大齋原での交流。高橋支部長と③メンバー

5月18日(土)晩の紀伊勝浦ホテル浦島のイベントには高橋支部長、今津の2名が参加した。

TOPICS 1

♪夏が来れば思い出す はらかな尾瀬とおい空 霧の中にかびくる……♪

60年振りの尾瀬の山旅。水面に影を落とす水芭蕉がここぞとばかり苞(ほう)を精一杯開けて迎えてくれた。青い空、新緑の山々そして水芭蕉の純白な苞、見事な自然美にしばし心を奪われる。

尾瀬ヶ原の真っ只中、木道の遙か遠くには、至仏山、振り返れば遂ヶ岳とその堂々たる体躯は、100名山と呼ぶにふさわしい。只一つ、残念なことがあった。それは、60年前とは言わないまでもこの時期べったりと山肌を覆う筈の残雪が、異常に少ないのである。わずかに至仏や遂の谷筋にその形跡を留めるだけであった。

気候変動だと言ってしまうえばそれ迄なのだが、宇宙船地球号は、自滅の航海の途に就いてしまっているのだろうか。(N. O.)



至仏山 (2,228m) 6月4日撮影

上高地 一ちょっと楽しい歴史の話(2)一

池田遊紀 著 解説 和田豊司

江戸時代から明治の初めまでは上高地は優良な木材産地として栄えた。その時代の生活と案内人として有名な上条嘉門次の話と往時の上高地と里（島々）を結ぶ唯一の峠、徳本峠が第二回である。杣とはもともと造都や寺社造営など大規模建造物を作る用材の産出山林、その山林で働く人々を杣人（樵きこり）という。（和田豊司）

2. 杣人の逢引きは徳本峠で

播隆上人が槍を目指した道、一行は三郷村から大滝山を経て、二ノ俣、槍沢、坊主岩小屋のルートを進る訳ですが、この辺り、当時どのような世界だったのでしょうか。上高地の美林は松本藩にとっては、大変に重要な用材切り出しの宝庫でした。藩財政の要でもありました。梓川沿いの集落（入四ヶ村・現安曇村）の人々は御用杣として春に入山、晩秋、切り出した木を梓川の水流を利用して松本（島立）までの川流しを終えるまで、この上高地に住み、作業を続けていました。

十数戸の杣小屋が点在し、その人数二百五十とも四百とも伝わります。主に藩の役人が利用する「上口湯屋」という温泉小屋も設けられていました。櫟（一位）という最高の材などは、江戸屋敷の床材にと、遠く陸路又は海路で江戸まで運ばれたとも言われています。

桶や屋根板になる樽木は現場で割られ、半製品とした上、女集や子供の背で徳本峠経由島々まで搬出されていたようです。

二ノ俣付近にも杣小屋は作られていました。槍を目指す播隆一行、山にこだまする斧や鋸の音を耳にしたことでしょうか、槍への道順その情報を得ることも出来たはずです。

この上高地での伐採事業は江戸初期に始まり、明治維新まで、二百年以上続けられました。平らな場所だけでなく、尾根筋、谷筋の相当上部まで、斧は入れられ、江戸末期には、あらかた木は切り尽くされたといわれます。

上高地には「天然記念物」といわれるような大木銘木がないのは、そのためでしょうか。身分制度の厳しい時代、藩の役人の元、頭、組、杣の順に夫々の仕事が決められ、杣にも薪杣、炭杣、板子杣、夫々専門化され組織的な事業が継続されていたのです。

年若い少年は「半杣」として、炊事係です。徳本峠は人の往来で賑わいます。上高地で働く



今の徳本峠小屋

杣衆、島々から日用品を運び上げる女衆。月夜の峠は、胸のときめく逢引きの場所だった……と地元の古老の話が伝わっています。

<解説>

杣人やその世話をする人たちの上高地入りの主たるルートは島々から徳本峠を越えて入山するのが一般的であった。

上高地（神河内）には主に役人が宿泊する上口湯屋と呼ばれる温泉宿が営業していた。江戸時代後期の営業開始といわれる。現在の上高地温泉ホテルの前身である。上高地内で温泉の出る宿は唯一この地である。

杣人が搬出する樽木とはヒノキやサワラから製材した板材。古くは壁の心材に、近世では湿気に強い屋根板材に使用された。飛騨地方では1960年代ころまで山村の多くの屋根は樽木をさらに薄く削いで並べその上に石を置くのが一般的であった。今でも山奥では板屋根に石を置いた農作業小屋を見ることがある。室内で火をたくことも多く、火事に弱いため次第にトタン屋根に置き換わった。ツガ、ネズコ、モミ、マキ等から挽き出した板子は15cm×180cmの板材、天井や建具材料にした。

松本藩の御用林を管理し切り出す仕事を請け負っていたのは入り四ヶ村と呼ばれる大野川・稲核・島々・大野田の4つの村を指す。後

の安曇村、今は松本市である。御用杣と呼ばれた。杣人の頭の名前が付いた谷筋も多い。

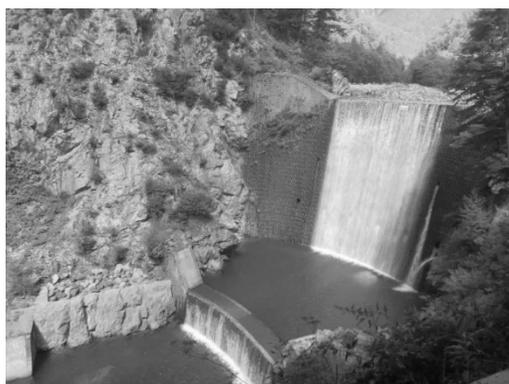
上高地から沢渡までの梓川は兩岸が迫り、滝、淵、岩場が連続するため人の通行は不能で、杣人、鳶などが掛かり木を外したり、堰を作って水流をコントロールし丸太を下流の土場(木材の集積所)まで流した。特に今ではトンネルになってしまった釜トンネル横の釜ヶ淵は川下げ(材木を下流に流す作業)の難所であった。



土場(どば)



薪や樽木の集積所
くれき



釜ヶ淵にあるダム

上高地のバスターミナルから小梨平にかけて春には新緑、秋には黄色に色づくカラマツ林が見事である。巨木のためさぞ昔からあるように思えるがそうではない。上高地が大正時代に保護林に指定されるとともに植林されたのだ。上高地にあった有用な木(一位、サワラ、オオシラビソ、ツガなど)はすべて切りつくされてしまい跡地に植えられたものである。



カラマツ林 日本観光振興協会より転載

参考文献:「松本藩山方の仕事」菊入三樹夫1)・上條 泰子2 市立大町山岳博物館研究紀要 3:81-93 (2018)

3. 山一筋に生きた嘉門次

廃藩置県にともない明治八年には上高地周辺の木材伐採は、全面禁止になります。もはや、切る木も無かったのも実情でしょうが、新・明治政府の「自然保護」への厳とした方針でした。

一方杣人にとっては、生活の基盤を一举に失ってしまった訳です。夫々山を下り、養蚕や細々とした山仕事に一家の糧を求めねばなりません。

そんな時、ただ一人上高地に残り「猟師」としての生活を夢見た「杣人」がいました。後年「山案内人」としてその名を残すことになる、上條嘉門次です。

上高地は「岩魚七分に水三分」との話が残っているほど、確かに岩魚は豊富だったのでしょう。山の菜も食するには充分です。杣の時代、クマやカモシカの猟は山男の余技として、その食卓を賑わしたことでしょう。しかし人も去り、ひところ藩役人の出先宿であった上口湯屋もいつか消えた上高地での猟はけっして一家を支える収入には結び付きません。

しかし嘉門次は山に残りました。

嘉門次は一八四七年（弘化七年）の生まれ、播隆上人が槍開山の大功をはたし、その七年後という事になります。

十三～四歳のころ、半杣（炊事係）として上高地に入り、三十二歳の時、明神池畔に自分の小屋を持ちます。



嘉門次 嘉門次小屋ホームページより

その猟師としては「十四歳の時、初めてカモシカを撃ち獲り、生涯でクマ八十頭、……獲物の習性や巣穴の場所、獣道、餌場などを熟知していた」とのこと、腕は一流でした。

梓川流域はもちろん、遠くは高瀬川、黒部、蒲田川まで、北アルプスの南部の端々にいたるまで足を延ばしています。

嘉門次は上條家の主でした。しかしそれを放棄したかのように、三匹の愛犬と山一筋の生活を送ります。

「嘉門次爺さんは年に二度しか山を下りてこなかった」とか、「お蚕の仕事は嫌いで、ちっとも手伝わなかった」と、孫娘の言葉です。時に、クマを背負って猟師仲間と家に帰ってくると、遠くから人を呼びお祭りのような酒宴が続く。

このままなら、地元でちょっと有名な腕のいい「猟師」として、その生涯を終えたかも知れません。しかし、時は流れていました。

山林局の陸地測量、三角点の選定、造標などの仕事が上高地でも始まります。明治の中頃からは、槍や穂高が登山の対象として多くの人の注目を集めます。

外国人として初めて槍に登ったのは英国の

技師W・ガウランドです。明治十年島々の猟師を案内人として槍登頂、この時の情報として、飛驒山脈について「日本アルプス」の名が生まれます。

この人達にとって、地元猟師の山の知識、山での生活の技術は、大変貴重なものでした。中でも抜きんでた登攀技術をもっていた嘉門次に、今度は猟師から「山案内人」としての新しい出発の 때가訪れます。

嘉門次が、W・ウエストーンと出会ったのはこんな時代のことでした。

<解説>

上条嘉門次は旧姓有馬嘉門次（1847～1917）、22歳の時島々の上条家に婿養子に入る。杣の仕事がなくなり猟師として閑散とした上高地に残った。この地を知り尽くした嘉門次は前述のごとく測量や造標に伴う山案内や荷担ぎの仕事しながら猟師として冬は熊、カモシカなどの毛皮を春から夏にかけてはイワナを干物にして売っていた。

明神に小屋を建てたころからウエストーン、ガウランドなど外国人が近代登山文明をもたらし、上高地にいわゆる登山者が入るようになった。賑わいの再来である。嘉門次はこのころすでに40歳半ば、心身ともに充実して世界に知られる山案内人として60歳過ぎまで活躍することになる。

島々に大きな家と妻子がありながら一生のほとんどを上高地に寝起きして、山野を愛したということは、どんな角度から観察しても、わがままいっばいな変人としか映らないのである。彼の名声と驚異に満ちた生涯は、ほとんど家にいない主人を当てにせず、黙々と蚕を飼い、炭を焼き、山仕事に励んだ妻きよと、その子嘉代吉の多大な労働なくして、嘉門次は語れない、と現嘉門次小屋の主（5代目上條瑞穂氏）は言う。



現在の嘉門次小屋、今も明神池の辺りに佇む

技術向上委員会

雪崩対策講習会に参加して

支部員 林 須美子

3月24日(日)、梅池で開催された技術向上委員会の雪崩対策講習会に参加しました。

参加メンバーは11名で、本来であれば2日間のカリキュラムで一日目：イグルー講習会、二日目：雪崩対策講習会の予定が天候不良のため雪崩対策講習会のみとなってしまったことは大変残念でした。しかし、講習は、4時間という短い時間の中で次のような実践として大変役に立つ内容でした。

1、雪崩発生メカニズムを知る

まずは雪山へ入る前に数日前に降雪があったか、何センチ積もったかの情報を得ておく。入山したら歩き出しからストックの柄の部分を使って雪に差し込み雪の層を手ごたえで融解凍結層が何センチ下のあたりあるかを確認。

その後、衣服調整や総部装着の時間内でスコップを使用し雪の層(融解凍結層)が確認出来るまでの深さを1メートル幅程削り出す。指先を使用し層断面の端で層の硬度確認(硬さ確認を記述するための書面配布あり)。

その後、必要であればショベルコンプレッションテストまで行う(30センチ幅の四角柱を切り出し柱の上にスコップを置きポンポンたたき層にひび割れが入るかを確認→剃刀で切ったようなびびが入った場合は危険)。

この最低限の情報を得るためのテストピットの工程を15分ほどで終え、危険が察知した場合は計画を断念する。



ビーコンを使って雪崩埋没者を探検する演習

2、ビーコンの操作と雪崩発生時の救出方法

ビーコンを使用する方法は別の場所で学んだことがあったが、機種によって捜査範囲に違いがあることは初めて知った。またビーコンの電波は8の字に発信され電波の出方によっては遠回りをすることもあるが矢印の方向に迷わず素早く進む。

ビーコンでポイントを押さえたらプローブを斜面の垂直に突き刺すがヒットしなかった場合はポイントの真上から時計回りに渦を書くようにプローブを刺し続け、埋没者にヒットしたら顔の部分を探しながら掘り起こし救出後に処置出来るようスペースをかき出しておく。

今回の講習で雪山の危険を再認識し、集団登山でのアバランチギア(ビーコン・プローブ・スコップ)は必携だと学びました。

東海支部メルマガ登録のお願い

東海支部ではメルマガ「東海支部だより」を毎月1回発信して支部からの連絡、行事の案内や各委員会からのお知らせなどを支部員・支部友会員の皆さんに配信しています。また急ぎの連絡を臨時発信することもあります。

このメルマガは登録した希望者に配信されます。**ぜひ登録してください。**

登録は東海支部のホームページの右側メニュー「支部メルマガ読者登録」で簡単にできます。登録が出来ない場合は総務にご相談ください。

登録ページ URL : <http://jactokai.sakura.ne.jp/shibuhp/modules/pico02/index.php/content0004.html>

支部からのお知らせで～す。



山行委員会だより

山行委員会委員長 稲葉 真英

鷲鞍岳山行に参加して

4月より支部員となり、初めての支部山行に参加させていただきました。

ルート自体は分かりやすく、現在地の確認は、尾根分岐点や傾斜変換点（等高線の間隔が変化し斜度が大きく変わる地点）などから位置を特定しました。登りは、とにかく登り。登り一辺倒と、4月とは思えない暑さでバテそうになりましたが、美しいブナ林が疲れを癒してくれました。途中では荒島岳が見え、山頂近くからは雪化粧の白山を眺めることができました。

リーダーの計らいで、途中でミニルートファインディング（RF）として、登山道を外れ獣道を歩きました。藪で方向が分からなくなりましたが、コンパスを頼りに進みました。時間の関係で、当初の予定の地点まで行けませんでした。コンパスの重要性を実感できるいい機会となりました。RFスタート地点に戻るときに、途中で自分が付けた赤布を見つけたときは、無事に戻れた安堵感がありました。今思うと、もう1箇所くらい赤布を付けておいたほうが、精神的にも安心できたかもしれません。

下山も一部急な箇所がありましたが、難なく下山できました。

帰宅してからは山行で出していただいた宿題をやりました。山頂付近で見た山の方位を確認し、その見えた山はどの山か？という内容です。そのときに撮影した写真、カシミール地図などで自分なりに回答を出しましたが、どれもハズレ。

後日リーダーからコメント付きの写真と分かりやすい解説をメールで頂きました。宿題のおかげで、下山してからも振り返りの登山ができました。

今回の支部山行では、途中のRF、山頂近くの展望地からの山座同定（地図とコンパスの活用）など自分達だけの山行では出来ない経験をすることができました。感謝するとともに、これからもいろいろな支部山行に参加させていただきたいと思います。（神戸 志摩）



山行委員会での訓練

山行委員に就任して

「山に登りたくて山岳会に入ったのに、個人山行ばかりで、全然山に行けない。」当支部にご縁ができて何年かになるが、こういう話を何度となく耳にしてきた。そのような中、思いがけず山行委員への就任を打診され、こんな自分でも少しでもお役に立てることがあればと思い、昨年4月に就任させていただいた。

山行委員会は、毎月第2水曜日午後7時から支部ルームで開催される（Zoomでの参加も可）。議題は、支部山行の山行計画の審査及び実施状況の報告や、支部山行をより充実させるための議論等である。加えて、昨年度、支部山行で相次いで事故が発生したため、その検証を行ったほか、事故発生時の対応方法を学ぶワンポイント訓練（ロープワーク等）も実施されるようになった。山行委員の業務は、ほかにも、担当する支部山行リーダーの窓口業務等がある。

山行委員の業務負担は、正直なところ、私にとって決して軽いものではない。けれども、経験豊富な各リーダーによる多様な山行計画の審査をはじめ、委員会の中で聞くこと、体験することは、いずれも登山経験が乏しく、技術もない私にとって、大変参考になる内容である。山行委員に就任したことで、貴重な経験や勉強をさせていただくことができ、感謝している。もうしばらくの間、微力ではあるが山行委員としてより多くの方に支部山行に参加していただけるよう取り組んでいきたいと思う。（堀端 静夫）

夏山フェスタから①

今年も夏山フェスタの東海支部のブースに講師の方々が訪れてくれました。タレントの釈由美子さんと竹内洋岳さんです。

釈さんは、「山が教えてくれること ～親子で学びの山活～」と題した講演を、竹内さんは、日本人初の8,000m峰14座制覇の成果をベースにした「ヒマラヤ登山と時間の話」と題した講演を行っています。



中央に釈由美子さんを囲んで



左から4人目 竹内洋岳さん

第19回東海岳人写真展 作品募集のご案内

標記写真展を下記の要領で開催します。この作品展は隔年開催しておりますが、支部員、支部友の作品ということで大変好評を頂いており、前回18回は1千人余の来場者がありました。山の魅力を写真をとおして表現し伝えていきたいと思えます。

日頃の山歩きや支部員、支部友としての登山の中で出会った美しい景色や花々等お気に入りの作品をお待ちしています。ふるってご応募ください。支部員、支部友会員以外の、猿投の森づくり会員、東海 youth、東海学生連盟、支部OBの方も応募できます。

- 1、開催期日 2025年(令和7年)2月25日(火)～3月2日(日)
- 2、会場 名古屋市中区 市民ギャラリー栄 7階 第1・2展示室
- 3、出展費用 プリント・パネル製作代込み
1点 前回同様A2版9,000円、A3版6,000円の予定
- 4、募集期間 令和6年10月1日(火)～11月30日(土)
- 5、応募要領 応募点数は、原則一人2点までとします。

(1) パネルと写真の大きさ(今回は①、②のどちらかを選択してください)

① 写真A2サイズ パネルB2サイズ ② 写真A3サイズ パネルB3サイズ

(2) 作品に関する説明(山名・印象等)は、150字程度までで、そのままキャプション(題名板)に記載します。撮影時の印象、感動、山の魅力、撮影条件など書いてください(任意)。

6、問合わせ他 展示会や応募に関する問合わせは、下記の写真展実行委員までお願いします。

<写真展実行委員> **実行委員長** 岩月邦文 090-5451-6855 **副委員長** 蟹井れい子 蜂矢昭子
委員 猪飼明子、井上寛之、熊谷美喜子、坂本孝、武内喜代子、椿利枝子、増田千恵子、米津妙子 尚、10月の支部報で詳細な案内・応募要領を掲載する予定にしています。

日本山岳会東海支部写真展実行委員会

山行には緊急連絡カードを携行しましょう

東海支部遭難対策委員会では、遭難防止活動の一環として、山岳事故発生 連絡カードを今年1月の支部報に同梱する形で皆さまに配布しています。

このカードの内容をご確認いただき緊急時に警察・消防に連絡すべき事項とともに、いざという時取るべき具体的な行動をご理解いただき、登山におけるリスクに備えていただくようお願いいたします。

(表)

(裏)

このカードを緊急時の連絡に利用することにより、警察・消防などによる状況確認が円滑に進み、早期の救助活動につながります。山行に行かれる際には「山岳事故発生 連絡カード」を必ず携行していただくようお願いいたします。

<p>・落ち着いて行動 ・事故者と同行者の安全確保 ・警察 110 番 消防 119 番へ ・このカードと登山計画書を 山行に携行して連絡に活用</p> <p>ex.食料、水など</p> <p>○その他 _____</p> <p>日本山岳会東海支部 Tokai Section of the Japanese Alpine Club 遭難対策委員会</p>	<p>山岳事故発生 連絡カード</p> <p>○事故について</p> <p>発生 月 日 :</p> <p>場所 山名 _____</p> <p>登山道名 _____</p> <p>付道 _____</p> <p>標高 _____ m</p> <p>地点 " " "N</p> <p>" " "E</p> <p>状況 人 けが or 病気</p>	<p>○事故者について</p> <p>住所 _____</p> <p>氏名 _____ 男女 _____ 歳 携帯 _____</p> <p>緊急連絡先 氏名 _____ 電話 _____</p> <p>事故の説明など _____</p> <p>ex.助がせないのでへりま請 意識 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/></p> <p>○要請内容</p> <p>○現地状況等 <input type="checkbox"/> 応急処置 <input type="checkbox"/> 安全地帯引き上げ <input type="checkbox"/> ヘリ送移動</p> <p>パーティ _____ 人 現地 _____ 人 待機 _____ 人 下山</p> <p>事故者・付添 ビバーク可 <input type="checkbox"/> 状況 _____</p> <p>連絡方法 氏名 _____</p> <p>携帯 _____ 電池残 _____ %</p>
--	--	--

事故発生時は支部にも必ずご連絡していただくようお願いいたします。

遭難対策委員長 高松 信治

TOPICS 3

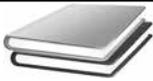
夏山フェスタから②

今年で10回目を迎えた夏山フェスタの記念企画展として、東海支部プロデュースの「登山道具の今と昔」と題した展示を、夏山フェスタ会場で二日間に渡って行った。岩と雪の登山道具を中心に20数点、新旧の道具を対比する形でパネルとともに紹介した。昔の展示品の一部を紹介すると、1本100万円を超えるシェンクのピッケル(1920年代製)を初めとした、ピッケル銘品四本、今では懐かしい麻ザイル、1960年以前に使用されていた、八本歯のスチールアイゼン、1970年のマカルー登山で尾崎隊員が使用したローバーの高所二重登山靴、1950年頃まで主流だったキスリングザック……と、今では滅多に見ることができない登山道具の数々が展示された。

好評で、見学者も老若男女幅広く、年配者は懐かしそうに眺め入り、若い人たちは、物珍しさそうに眺めていた。

最後に、展示パネルの一枚を紹介する「登山道具の変遷：登山道具を進化させたものは、軽量化と機能性を追求してきた結果であり、そのための、素材の進歩・技術的な改良は、近年の登山ブームが、牽引してきたものです。ニーズがあってこそ、進化であると言えます」。(前田 隆久)





東海支部の蔵書からの一冊 39

図書委員長 石田 文男

『奥美濃の山旅』

『奥三河の山旅』—愛知の山と峠—

沖 允人著

手書きの『奥美濃の山旅』に接したのは出版されて間のない頃で、奥美濃にどっぷり浸かり地図を持ち歩きながら明けても暮れても睨めっこしていた時だったから、ここに出くわす知らない山、知らない谷の多さに驚き、地図片手にあの谷この谷を探っている自分を想像したものだ。

著者は25歳から奥美濃に登り始めていて、とくに大きく影響をうけた『樹林の山旅』などをバイブルとし、奥美濃の山登り、谷歩きに明け暮れた昭和35年から45年の記録を纏めたのが、この書の前身『奥美濃ノート』で、この母体になっている。

※

〈奥美濃に憑かれた男〉の一節。「友と二人、奥美濃に関する記録を集めて小冊子を作るための原稿を新聞社に持ち込んだり……。しかし、その時訪ねた中日新聞社では、本よりも奥美濃のようなヤブ山を懸命に登る男の話の方が面白いと言われ取材された。そして、〈中日スポーツ昭和43年4月9日号の山の特集〉に記者の筆により以下のような記事が掲載された。

「山へ、人は心の自由を求めに行く。人と人とのかかわりあいから解放される喜びを求めて、人は山へ行くのだ—浦松佐美太郎〈たった一人の山〉—。素晴らしい観光地があるわけでもなく、……。一日中歩き続けてもめったに人に会うことのないという奥美濃。ここに心のふるさとを求める人があっても……。とりわけ騒音の中に住む都会人にしてみれば、なにものにもわずらわされることのない奥美濃には無限の魅力がひそんでいるのかもしれない」、と。

27項目ある目次は興味あるものばかりで、パッと開いた頁には引き込まれる文章が鏝められていてつい目がとまる。とくに〈左門岳から河内谷へ〉からは、当時、奥美濃の黒部と言われた川浦谷から幾つもの滝を越えて左



門に立ち、帰路泊めてもらった民家での人とのふれあう話は微笑ましい。

〈奥美濃に関する本〉では「……。最後に奥美濃に関する文献を紹介し皆さんの参考にして……。乏しい私の蔵書を中心にしたものなので、とても奥美濃の文献にならないが……。何かの参考に」とある。著者の奥美濃への興味を抱かせた『樹林の山旅』を第一冊目に取り上げ、〈補遺〉を合わせると37頁にわたり98冊が簡潔解説付きで、その分量・蒐集にもただ驚くばかり。

さらに驚くは、手書きの本であること。今とは格段に違う交通事情の下、鉄道・バスの乗り継ぎ、倍以上の時間をかけて意気揚々と山に入っていく。記録として残す。重みのある一冊である。

※

あまり本を手にしなくなった昨今、こういった類の本にどう向き合うかは読者次第。

拾い読みしていると、自分の奥美濃初期の頃（昭和52年から57年頃）の山旅が断片的に過ぎていく。例えば、10月の下旬（独り）、黙々と遡って行った紅葉のコンドウ谷上部から大樹林を透して仰いだ三周ヶ岳の東面岸壁。あるいは1月下旬、友と塚から淡々と歩いて取付いた金草岳、冠山の南尾根。冠は南の急峻で凍り付いた岸壁を試登後、基部を巻きながら東稜の側壁からピークに達した。また、4月初め、東面からシャープな線を碧い空に突

き上げている屏風や、カラカン谷を詰め最後は雪庇を抜いて立った磯倉などなど。今も奥美濃への憧れは大きい。

B5版280頁 付録9頁 (150部)

発行1983年7月16日

※

『奥三河の山旅』は「私たち夫婦が愛知県内の山と峠、主として、奥三河の山と峠を登ったり歩いたりしたときの思い出を思いつままに」書き纏められたものである。

この6年後、東海支部が『続山旅徹底ガイド』を発表しているが、このうち三河の山として47山紹介されていて、本書と合わせ読むと今後の山行の参考になろう。因みに、この時東海支部メンバーの総力で正統2巻(260山あまり)が刊行されている。

本書は昭和60年から5年間ほどの記録だが、120あまりの山の数だ！その全てに、その山の位置・容姿・交通事情・周辺の歴史・登った感想などが述べられているのが凄い。興味深いし、その山を知れることが何より嬉しい。

「・・・山村の変容は愛知県に限らずどこでも厳しいものがある。開発と過疎は人間の都合によって・・・傷つけている。だが、自然はこれらの人間の営みに寛容で、・・・本書はこのように生き続けている愛知県の山と峠への私たちの挽歌と賛歌である」この〈まえがき〉を念頭に読みたい。

※

巻末にある以下4点は読者次第によって、どう生きてくるのだろうか。

・46点の「愛知の山と峠 文献ノート」付録として、
・愛知県関係「二万五千図」一覧
・愛知県の山と峠(二万五千図別) ・愛知の山と峠 (アイウエオ順)

※

5年余りかかって奥三河の山を中心に愛知県の山々をほとんど登った頃、急遽、職場を栃木県足利市移ることに。「これから十年以上を足利で過ごすことに・・・。この機会に名古屋での生活をいろいろと支えていただいた皆さまへのお礼の気持ちも加えて、この本を妻との共著として自費出版することにした。名古屋を去るにあたって、惜別の情は抑えがたい。しかし、《人間至るところに青山あり》との言葉を信じて新しい土地に向かうことにする」と、あとがきに結ばれている。

のち、二十数年にわたり足利を本拠地に、栃木・群馬・埼玉・福島(会津・阿武隈の山)など東北へ、北海道・日本アルプス・新潟・石川などの山へと広がっていく。これらが『足利からの山旅』として、7巻に纏められたのも凄い。

この7巻の紹介は次号に委ねたい。

A5版230頁 私家版(300部)

発行1990年3月31日

登山用具あれこれ⑫

コンプレッションアンダーウェアについて

前装備委員会委員長 千葉 泰丈

登山においてもよく見かけるようになって久しく、もしかしたら登山に行くときの私の定番？となっている人もいるのではないかと思うコンプレッションアンダーウェアについて述べてみたいと思います。

一口にコンプレッションアンダーウェアと言ってもどのメーカーでもデザインだけの違いで、みな同じではないかと思ったりするのだが、それぞれのメーカーで主張する効果、考え方は違い、その差別化を図り、その効果を強調しているようです。

登山者にとっては、その効果が認められるので愛用者が増えているようです。その効果とはいずれも筋肉疲労の軽減です。私とコン

プレッションアンダーウェアの出会いは、かれこれ30年以上前のことになります。私が30代後半になり運動不足により少し体力の減少を感じ始めている頃で、しばらくぶりに山に行くとき必ず昼を過ぎたころから、特に太ももの筋肉が硬直してしまい足を動かすのに苦痛を感じ始めるのでした。それがコンプレッ



ションアンダーウェアを履くことによって、筋肉の硬直が無くなり1日中歩き回っても全く平気になったことで、これはすごいぞと感じました。それを以て他の人にもお勧めできるものだと感じるようになりました。

体の、特に腰から下の下半身を軽く締め付けることで血流が良くなって運動パフォーマンスの向上につながる。筋肉に抵抗を与えることで体脂肪の燃焼を促すエクササイズ効果がある。筋肉や関節の動きを制限させることでけが予防を期待できるなどのことが有ります。メーカーによってうたい文句としているポイントに違いがあるようですが、そのことを言っていないメーカーのものでもその効果は期待できるのではないかと思います。

けがの予防効果や、負傷個所の悪化を防ぐために行うテーピング理論を応用したものもあります。そのテーピング理論を応用したメーカーのものを好んで使っていますが、テーピングと違って糊で肌に完全に張り付いてい

るわけではないために、けがの悪化を防ぐまでのことにはないように思います。

また、ズボンの上から岩に当たった程度でも内側に履いているコンプレッションアンダーウェアに穴が開いてしまうといったように、硬いものとの接触に対する強度はあまりないようです。デリートに扱わなければならないようです。

コンプレッションアンダーウェアの登場により登山のファッションに大きな進化が見られました。昔のニッカーボッカーに山シャツの登山スタイルとはまるで違う。現代的でとても良いですね。私個人の見た目では、タイツにテーピングを張り付けたようなその見た目は少し物々しい感じを受けるのが良いやら悪いやらですが、それも新しい技術の開発により、布地1枚でそのテーピング効果を保ちながら見た目はよりスマートになっている機種も発売されているようです。

委員会報告

【ボランティア委員会】

5月25日(土) 東三河・衣笠山の周回コースで、春のブラインド登山が行われました。当日は、晴天にも恵まれ、ブラインド登山者6名、東海支部員20名が参加して、福祉バスを利用した山行でした。

今回は、初参加のブラインド登山者が1名、サポーターが8名いて、拡がりが見えるのはうれしいことです。

衣笠山からの、三河湾、太平洋の眺望は素晴らしく、風も爽やかで、賑やかで、楽しい山行でした。

年2回行っており、秋にもブラインド登山が開催されます。たくさんの方のご参加をお待ちしています。



春のブラインド登山の皆さん

ボランティア委員会委員長 前田 隆久

東南アジア・インド紀行の話 I ～タイガーヒルよりカンチェンジュンガの眺望～

支部員 田中 進

昭和9(1934)年8月20日、松坂屋初代社長伊藤次郎左衛門祐民(すけたみ)は名古屋港から諏訪丸にて東南アジア仏蹟巡拝旅行に出掛け、タイ、カンボジア、ミャンマーを経て10月9日カルカッタに上陸、ダーズリンに向かいヒマラヤの大雪山嶺を眺望し、その後二ヶ月に及ぶ全インドの仏蹟を訪れました。

彼の日記より「一行は10月19日午後9時、シアルダー駅を出発、ダーズリンへ向かう。翌日午前7時シリグリ駅下車、自動車にて2時間でダーズリン着、サンカール氏別荘に入る。夜はハリハランの日本料理にて夕食、窓外十三夜の月清く冬着す。

21日午前7時起床、雲間にカンチェンジュンガ少し見える、昼はポニーに乗り市街見物、雪山に懸かる雲次第に動き始め明日は快晴ならんとホテルより知らせあり。

22日午前2時起床、十五夜の月中天にあり、乗馬3頭数人のチベット人の車夫の後押しや引手ある人力車一台にてタイガーヒルに向かう。6時着、毛布を引被り魔法瓶の紅茶に暖を取り待つこと暫し、月の入りと日の出同時、カンチェンジュンガの壮観無比、世界の最高峰エベレストは西方遠く数分間その姿を表わす。」

私は松坂屋定年後、伊藤祐民の別邸、揚輝荘の管理活用、ガイド仕事の傍ら、彼の仏蹟巡拝の足跡を訪ねて、紀行文を発表していました。昨年11月に私家本「伊藤祐民の偉大な功績」を執筆し、東海支部報177号に紹介されました。

今回のダーズリン紀行は、2012年12月13日、カルカッタ(現コルカタ)から、北へ500kmヒマラヤに連なる尾根の上標高2100mに位置する茶面に広がる高原のルポルタージュです。翌日早朝コルカタ空港からダーズリンのバグドグラ空港まで1時間。ダーズリン行が出るスイグリーの停留所では客待ちの何台もの乗合ジープがいて、乗客が定員オーバーの10人になると発車しました。



乗合ジープでダーズリンへの山道



トイトレインの線路が走る山道を猛スピードで走り、途中クルシヤンの駅でトイレとチャイ休憩。日が沈み暗くなった町外れのホテルに2時間半後に到着しました。

翌早朝チャーター車で4時半出発、まだ暗い山道を一時間走り、標高三千メートルのタイガーヒルに到着。入場料金40ルピーを払い日の出をしばらく待っていましたが、多くの観光客と一緒に待つ気温零下の屋外は寒く、追加30ルピー(日本円45円)を払って三階建ての建物内へ移動しました。そこは売店や喫茶があり、暖かく快適なソファが有る部屋でし

た。欧米人の観光客がほとんどでゆっくり出来、チャイを飲みながら待つことしばし、6時15分日の出、日が昇るにつれて北方の闇から金色に染まってゆくカンチェンジュンガ8586mの威厳たる姿、感動の瞬間でした。

さらに祐民も見た西方、かなり離れてエベレスト（8848m）のピークもくっきりと見えました。

西方に朝日を浴びたエヴェレスト遠望



タイガーヒルから北を向くと左からジャヌー（7710m）に続き、カブルー南峰（7317m）北峰（7338m）更に高く聳え、朝日に輝くカンチェンジュンガ峰はチベット語で「偉大な雪の5つの宝蔵」と言われる世界第3位の頂きです。

手前から南峰（8476m）、中央峰（8478m）、主峰（8584m）、西峰ヤルンカン（8505m）、カンバチェン（7903m）の五峰が連なり、雲海の左下は標高2100mのダージリンの街になります。

初登頂は1955年イギリス隊、1973年日本は京都大山岳隊が西峰を初登頂しました。日本山岳会は1984年創立80年事業として南峰、中央峰、主峰の縦走に成功しています。

ホテルに帰り朝食後、裏山の長谷川傳次郎撮影地に行き、運動場にいた人に写真を見てもらおうと、クリケットの試合の写真でしたが、ホテルかと思っていた建物はミッションスクールであり長年の謎が解けました。



長谷川傳次郎 撮影1934年



セントポールスクール2012年田中撮影

現在は中、高校も増築され沢山の生徒が通っています。ダージリンの繁華街チョウラースターの街をゆっくり散策し、ヒマラヤ動物園やテンジン登山学院、ダージリン茶畑を見学しました。



ダージリン紅茶畑の山並みを背に筆者

世界遺産のダージリン・ヒマラヤ鉄道トトレインは開業1881年、アジアで一番古い登山鉄道です。麓のニュー・ジャルパイグリから88キロ、7時間でダージリン駅まで上がります。しかし2010年6月に起きた山崩れによりクルシャン駅まで運休中でしたが、観光客の為にダージリン駅とグーム駅往復2時間コースが運行されていたのでチケット購入し乗車出来ました。

インドの登山家を訓練するヒマラヤ登山学院の初代校長を務めたのが、テンジン・ノルゲイです。1953年5月29日29歳の時エドモンド・ヒラリーと達成したエヴェレスト初登頂者です。彼はネパール・シェルパ族ですが、19歳でダージリンに移住し、各国の登山隊と合流しました。1964年2月に日本山岳会の招きで来日もしています。1986年71歳で亡くなりました。



ダージリン・ヒマラヤ登山博物館



テンジン・ノルゲイの遺品登山用品

名作の舞台を訪ねて(1)

支部員 村中 征也

今年2月末『名作・名曲からの50選 日本の原風景を描く』を上梓した。多くの反響があり、東海支部報4月号で詳しく紹介して頂いた。

前作『百人一首とスケッチの旅』で果たせなかった名作の舞台を描く旅。文学・音楽の分野から50を選んだが、北海道から沖縄までほぼ全県を網羅出来た。

2018年にスタート、コロナ禍での3年間の中断を経て、2023年12月沖縄県読谷村に立ちフィニッシュした。

サプライズは朝日新聞の声蘭「歌とわたし」への投稿-沖縄県で読まれて大歓迎、「戦死した父を偲ぶ慰霊の旅」として終結した。

思い出の詰まった50の旅から10か所程を選び、順次紹介させていただきます。最初は北海道の「No. 3知床旅情」から。



読谷村「さとうきび畑」の歌碑前で

3 歌謡・知床旅情 北海道羅臼町・知床峠

知床の岬に はまなすの咲くころ
思い出しておくれ 俺たちの事を
飲んで騒いで 丘にのげれば
はるかクナシリに 白夜は明ける

1960年、森重久弥が映画『地の涯に生きるもの』の撮影時に作詞・作曲、1962年の紅白で自身が歌い、1970年に加藤登紀子が歌ってヒットした。

【しおかぜ公園】

2019年7月10日、羅臼町の海を見下ろす高台を訪れる。映画を記念した「オホーツク老人」の像は、森繁そのものである。

視線の先は「国後島」、手に取る近さに驚かされる。距離は約25km、下北半島から函館までの距離。近くの人達に聞くと、「毎日見ているからなんとも思わない」…意外な返答。しかし、奪われて74年、悔しい思いに駆られる。

持参のオカリナを取り出し、島に向かって「知床旅情」を演奏…念願の地に立てた満足感と、島をバックに咲く赤いハマナスが綺麗だった。

【知床峠】

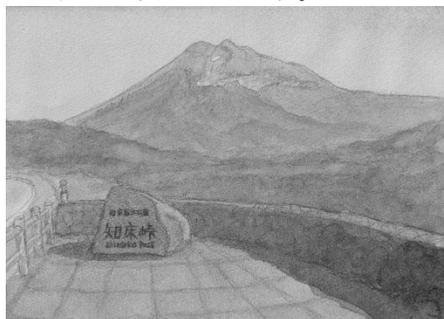
知床半島の横断は困難だったが、1980年、オホーツク海側の斜里町ウトロから太平洋側の羅臼町まで、27kmの横断道路が開通、知床峠は標高738mで、眺望に恵まれ人気のスポットとなった。

岬へは船でないと行けないので船着場迂回くが、何故か嫌な感じがして止めた…3年後に大事故、変な思いである。

2019年7月10日、念願の知床峠に立つが、一面の霧で眺望ゼロ、スケッチは諦めて下車せず羅臼に下った。

翌11日、羅臼は曇りだったが、帰途のバスが峠に着くと快晴、好運に感謝して途中下車。天候の分水嶺でもあった。

峠からは真正面に羅臼岳1,661mを仰ぐ。半島の中央部にあり最高峰、深田久弥が百名山に選んでいる。登りたい山の一つであった。峠からは約3時間…登山を諦めた今となっては、スケッチに代えておこう。



知床峠で羅臼岳を描く

羅臼の宿では温泉に浸れた。二人連れに声を掛けられ、部屋に招かれて旅談議、豊富な話が聞けた。50選の場所を聞かれ、興味を示されたのが嬉しかった。後日談…一人が酒井さんと、徳川四天王の末裔と知る。

同好会コーナー

スケッチクラブ

鶴舞公園の花を求めて 小川 義夫

6月5日(水)、まばゆい程の日差しに抜けるような青空、心地良い緑に覆われた鶴舞公園に9名のメンバーが集まったのスケッチ会。

バラ園、アジサイ、菖蒲もまだ見ごろ。メインの対象は菖蒲だったので、多くが好みの場所に陣取りました。

平日にもかかわらず思いのほかぎわう中、昼過ぎにはほぼ描き終え、昼食後に木陰のベンチにてそれぞれの作品の講評会(?)らしき事にて時を過ごしました。

今回のスケッチ旅は、7月31日(水)の愛知牧場、9月11日～13日の立山・みくりが池と続きます。興味をお持ちの方、一緒に楽しめればと思います。参加をお待ちしております。



鶴舞公園噴水塔前で

11年の歩みと今年の活動 石井 仁

「山好きが何時でも何所でも」…クラブライフの充実を求めて、2013年7月東海支部の同好会として発足、今年12年目を迎えました。

今までの歩みと今年の活動を紹介します。従来とは一味違った世界が広がります。経験や才能など心配不要、門戸を開いてますので、一度覗いてみて下さい。

【11年間の主な活動】

- 2013. 7 愛岐トンネルで設立の集い
- 13. 11 谷汲山・横蔵寺
- 14. 2 近江長岡
- 14. 5 白馬山麓へ宿泊
- 15. 5 伊勢志摩へ宿泊
- 15. 11 奈良・山の辺の道
- 16. 5 上高地へ宿泊
- 16. 9 浜松ガーデンパーク
- 16. 11 近江八幡
- 17. 5 野辺山へ宿泊
- 17. 11 琵琶湖・長浜
- 18. 6 千曲市あんずの里へ宿泊
- 19. 5 剣岳山麓・馬場島へ宿泊
- 20. 10 御岳休暇村へ宿泊
- 22. 10 奈良・明日香村へ宿泊
- 23. 7 日間賀島

* その他、近隣へは毎年4回程スケッチ

【作品展】

1年間の集大成と会員相互・支部員等との交流のために、毎年開催しています。

- 2015. 5 第1回 栄・安藤七宝店
- 16. 3 第2回 千種・よあん
- 17～23 第3回～第9回 中区市政資料館
- 24. 10. 2～6 第10回 市政資料館

【今年の活動】

- 2. 28 名古屋市農業 センターしだれ梅
- 6. 5 鶴舞公園・菖蒲
- 7. 31 愛知牧場
- 9. 11～13 立山室堂 みくりが池
- 11. 27 鳳来寺山・紅葉



2019. 5 中山で剣岳をスケッチ

代表: 石井 仁

事務局: 村中 征也 岩田 智与子

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画(令和6年10月~12月分)

- 10月12日(土) ☆
 山域：南アルプス南部 山名・高塚山
 リーダー：林 康太郎
- 10月14日(月・祝) ☆☆
 山域：鈴鹿南部 山名：錫杖ヶ岳
 リーダー：磯部 隆
- 10月19日(土) ☆
 <夏山フェスタの入会者対象の体験登山>
 山域：三河高原 山名・物見山
 リーダー：金谷 正起
- 10月20日(日) ☆
 山域：越美山地 山名：野坂岳
 リーダー：今津 英一朗
- 10月23日(水) ☆
 山域：沼津アルプス 山名：香貫山
 リーダー：川崎 禎明
-
- 11月2日(土) ☆
 山域：奈良葛城山系 山名：金剛山
 リーダー：田中 進
- 11月10日(日) ☆☆
 山域：伊那谷 山名：大川入山
 リーダー：高松 信治
- 11月16日(土) ☆
 山域：京都トレール 山名：鞍馬寺～貴船山
 リーダー：村瀬 恭平
- 11月16日(土) ☆
 山域：湖西アルプス 山名：座談山・神石山
 リーダー：今津 英一朗
- 11月17日(日) ☆☆
 山域：奥三河 山名：岩古谷山
 リーダー：近藤 政仁
- 11月23日(土) ☆☆
 山域：西濃 山名：西台山
 リーダー：林 康太郎
- 11月30日(土) ☆
 山域：鈴鹿南部 山名：宮指路山
 リーダー：榎 将美
-
- 12月7日(土) ☆
 山域：恵那 山名：笠置山
 リーダー：磯部 隆
- 12月8日(日) ☆
 山域：新城市 山名：五葉山
 リーダー：近藤 政仁

- 12月15日(日) ☆☆
 山域：鈴鹿山脈 山名：藤原岳
 リーダー：高松 信治
- 12月15日(日) ☆☆
 山域：鈴鹿山脈 山名：竜ヶ岳
 リーダー：今津 英一朗
- 12月21日(土) ☆
 山域：京都 山名：大文字山
 リーダー：磯部 隆 雨天：中止
- 支部友会員数 令和6年5月末現在 67名

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

- 「予定」第65回 8月13日(火)
 テーマ：「地図読みの基本」
 支部ルーム 19：00～20：30
 講師：高松 信治氏(日本山岳会東海支部員)
- 「予定」第66回 10月26日(土)・27日(日)
 テーマ：「朝明ミーティング」
 朝明茶屋キャンプ場
- 1日目：分散登山後 BBQ キャンプファイヤー
 2日目 講演 ファーストエイド講習会
- 申込み開始** 支部友会員は山行日の3か月前から、優先は1ヶ月です。支部会員は山行日の2か月前から、山行の募集人員を超えない範囲で参加申し込みを受け付けます。月に2山行まで。

リーダー連絡先

尾上 昇	onoe@onoe.co.jp
金谷 正起	kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
榎 将美	m.sakaki@minds-consultin
松本 陽子	yo-kom@nifty.com
田中 進	t-susumu@peace.ocn.ne.jp
磯部 隆	takass@yk.commufa.jp
高松 信治	takama2nibu3@yk.co
今津 英一朗	imazu.eiitirou@maroon.plala.or.jp
村瀬 恭平	hoshizakari@docomo.ne.jp
近藤 政仁	vft55ud55@gmail.com
倉橋 智司	ilyt6by8@qc.commufa.jp
奥野 明美	tac-okuno@mbi.nifty.com
池戸 美恵	noboruonna@icloud.com
川崎 禎明	y.kawa715@gmail.com
久野 輝美	kuno4895@hotmail.com
林 康太郎	koutaroppi@gmail.com

会 務 報 告

【2024年3月常務委員会】

日時:3月27日(水)19時(ZOOMとの並行開催)

1. 支部長挨拶 (高橋)

- ・残念な事故が起きた、尻もち骨折。検証していく。
- ・岐阜山岳会連盟のメンバーが涸沢で遭難、捜索中。ココヘリで遭難者の位置確認はしている。隣県の支部なので雪が解けたら捜索の応援に行く。
- ・雪崩事故について東海テレビから取材を受けた。

2. 総務委員会 (今津)

- ・入会3人、退会7人。
- ・名古屋駅ゲートタワー6Fの献血ルームの展示スペースを5月の1ヶ月間、無料で使えることになった。月に3,000人くらい献血ルームの利用者がいる。

昔と今の道具、アイゼン、ピッケルなどの展示やQRコードを掲示して東海支部のホームページを閲覧できるようにして支部のPRするのはどうかと意見が出た。

- ・令和6年度の組織図について図書委員会、装備委員会、デジタルメディア委員会は総務委員会に属する。

3. 愛知山岳連盟 (星)

- ・雪山研修、東海支部から2名参加、埋没体験など。4/23春山遭難対策会議あり参加。

4. 支部友委員会 (金谷)

- ・【夏山の誘い】の審議をした。支部友から支部へ3名移動。

5. 山行委員会 (稲葉)

- ・2024年リーダー会議実施(3/25)支部山行が活性化するよう情報交換や意見交換していく。
- ・『支部山行、事故報告』

3/20、鈴鹿南部 溝干山山頂から20mほど坂下峠へ向けて降りた登山道。

負傷者(支部友員)右足、脛骨・腓骨 折損。
当日の天候は強風、10:30ごろから雪。

頂上から下降開始、先頭を歩いていて。ロープを持たずザレ場に足を取られて尻もちをつくように転倒した時に足を捻って骨折。110番119番救助要請し、消防にて甲賀病院へ救急搬送。事故発生要因として、検証中。

(高橋)山頂近くでツェルトを使用し救助を待つか降りるか、それぞれリスクはある。再発

防止の検証をする。搬送技術も必要。

6. 亀の会 (鈴木慎吾)

- ・月例山行、自主山行数多く実施している。
- ・交通手段マイカー、レンタカーの使用規定を決める。
- ・賠償責任保険を検討する。
- ・7月に富士登山。2泊3日でゆっくり登る。15名くらい3月?7月にトレーニング山行を行う。

7. トレッキングクラブ (服田)

- ・会員15名委員長、指導者 計19名

8. 東海学生山岳連盟 (山下)

- ・ボランティア委員会のブラインド登山 5/25 予定。南山3名、名工大2名。

9. アルパインクラブ (高橋)

- ・3/16ヒマラヤ報告会、学習院大学で行った。
- ・青年部と融合。
- ・GWは岳沢山行の予定。
- ・5/12クライミング伊木山

10. 登山学校 (服田)

- ・第8期(2024年7月開講)3/31まで支部友優先受付期間、応募1名
- ・4/1から支部員にメルマガで告知する。
- ・3/2机上講習 読図、春山気象

11. ボランティア委員会 (前田)

- ・委員会合宿、オハイ予定。

12. 遭難対策委員会 (高松)

- ・緊急連絡カードを支部報と一緒に発送。
- ・コンパス経由で登山届を出す場合はリスクチェック表の添付なし。

13. 技術向上委員会 (清水)

- ・3月24日雪崩対策講習 講師は杉原和樹氏 参加者11名委員4名
- ・登山計画の立て方の講習予定(登山学校受講生向けの内容)

14. 日本山岳会120周年事業、古道調査

- ・吉野→熊野大社(高橋)
- ・玉置神社→熊野本宮大社 5/17前泊+5/18日帰り、2名申込(清水)
- ・前鬼→玉置神社 バイクで登山口まで行く。単独実施(稲葉)

15. デジタルメディア

- ・支部HPは井上寛之さんから新メンバーへ引き継ぐ。鈴木絵美子さん、新しく入会された大槻さんが新しいホームページを作る。

16. 会計（奥山）

・今期から各委員の費用は立替申請とする。報告は毎月。3ヵ月締めで会計担当の奥山さんに費用請求する。

・講師への依頼前に講師謝金の金額を常任委員会で検証してから講師依頼すること。

（参加者）高橋、今津、服田、前田、高松、西山、鈴木（慎）、鈴木（絵）、石田、山下

（ZOOM）稲葉、星、清水、金谷、千葉

【2024年4月常務委員会】

日時：4月24日（水）19時 ZOOMとの並行開催

1. 支部長挨拶（高橋）

・新体制になり新しいメンバーで始まりますが、よろしくをお願いします。

ゴールデンウィーク中は天候不順とされていますので山に行かれる方は十分注意し、慎重な行動判断をお願いします。

総会について、最終協議を行うのでよろしくお願いたします。

2. 総務委員会（今津）

・支部員4月度入退会：なし 現況：328名 入会手続き中4名（2023年3月末在籍会員数340名、入会累計13名、退会累計25名 -12名）

・ゲートタワービル最上階献血ルームにて「山の道具今昔」をテーマに新旧の登山用具を展示（5月2日～5月末）。

・R5年度活動報告書等本部提出書類は4月21日提出済。

・ガイドブック改定についてR6年度体制、ルーム使用スケジュール確認等を行ったうえでメールにて共有、確認の後改定予定。昨年度より印刷配布を止め、ホームページ掲載でしたが、グーグルドライブに掲載してQRコード配信を予定。

・古道調査について

奥駆南部 稲葉単独（GW） 奥駆テント一気通貫 高橋支部長、草野（5/14～）

5/17～19 玉置神社 清水、今津 他2名 イベント参加 高橋支部長 今津 他

・東海支部対象の損害保険について予定より高額になるため加入は一旦見合わせ再検討する事とする。

3. 山行委員会（稲葉）

・古道調査 大峰奥駆道南部踏査について（稲葉単独）GW中の天候により日程変更、場合によっては中止も含めて検討中。

*最近の新規入会者数々が山行システムのパスワードを受け取っていない可能性があるのでは

（名簿を再送しましたので）確認願います。（総務）

4. 県山岳・スポーツ連盟（鈴木絵美子）

・次年度会員登録の件

支部から各委員会の委員長を登録していただいているが、変更があれば教えていただきたい。青年部に代わる委員会の有無についても含めて今津さんに取りまとめをお願いします。

*アルパインと山行委員会にて登録者を調整する。個人の登録者には鈴木さんが継続確認を行う。

5. 猿投の森づくりの会（和田）

・わいがや講座について、普段入ることの出来ない東大赤津研究林を見学する事ができるので興味のある方はご連絡ください。

・20周年記念行事について秋に計画予定。

*「猿投の森に触れ親しむ（仮）」のようなプロジェクトを立ち上げて一緒に考えていく。

*猿投の森づくりの会総会審議事項について次回回覧とする。

6. トレッキングクラブ（服田）・資料通り。

7. 支部報 178号案（星）

・7月1日発行予定 原稿締め切り6月末内容予定については資料通り（一部訂正あり）。

・同好会コーナーで活動している会は是非原稿をいただきたい。

・同好会「塩の道」は代表がいないので消す。

8. 登山学校（服田）

・第7期は6月で終了。

・第8期については4月13日より一般公募をHPにて実施中。Aクラス定員18現在申し込み者数8 Bクラス定員6申し込み者数6（満席）必要経費：会費12,000+支部友会費4,000

9. アルパインクラブ（高橋）

・5月12日 総会当日の午前中に（一般向けクライミング体験第2回）実施予定。

現在参加者7名 学生連盟からも参加者あり。

・韓国交流登山を6月14日～16日に2泊3日で計画。山行企画に掲載して参加者募集を行う。

（確実に参加される方若干名）現在7名確定。

・カナダについては3か年計画で本部主催事業として行うことは聞いているが今一つ盛り上がっていない。費用が50万と高額なこと等で、参加者も少ないのではないかと思われる。

10. 東海学生山岳連盟（山下）・資料通り。

*広報にXも利用（学連の加盟大学が少ないので募集もかねて）

*新歓：山域を明確に記載する。開催場所を具

体的に記載すること。

11. 海外登山委員会（星）

・インドヒマラヤ隊はインドに登山申請中。近じか返事が来る予定参加隊員は決まっているので総会にて紹介を行う。

12. ボランティア委員会（前田）・資料通り。

13. 遭難対策委員会（高松）

・気象講座は「山のお天気講座」として2025年3月1日1回のみ行う。山行中に気象に興味を持たせる展開をしていき、気象講座につなげる。（山行時に気象に関するクイズを行う、気象担当を作りその日の天気概況を報告するなど）
・その他は資料通り。

14. 写真展実行委員会（岩月）

・第19回写真展の開催に向けて
会場・昨年同様「市民ギャラリー栄」日程・2025.2.24~3.2 募集・支部報7.10月 前回出展者に葉書。メールにて開催協力依頼。
*支部公式インスタグラムの利用も可能。
東海支部の広報も兼ねた写真展として各委員会の紹介、活動紹介コーナーを設ける等の企画を提案。⇒総務に協力依頼。
*体験山行は公共交通機関利用、又は現地集合、現地解散を原則とする。（確認）

15. 技術向上委員会（清水）

・アンケートの結果「イグルー講習会」の希望者が多数のため今年度2月下旬から3月中旬頃に開催計画を立てる。
・「登山計画の読み方・立て方」講習会を11月24日（日）に実施予定 登山学校共

16. その他

・総会時委員会紹介：海外登山委員会・写真展実行委員会・アルパインクラブ・山スキークラブ・遭難対策委員会・ボランティア委員会・猿投の森づくりの会・技術向上委員会・登山学校委員会（9組）時間枠90分
・委員会費は事前に配布せず、必要な経費について常務委員会にて承認を受け都度清算とする。月次管理は各委員で行い年度末に例年通り報告を行う。
・各委員会は会期中に必要な予算計画案を作成し次回理事会に提出すること。
・予算枠としては昨年度実績同程度もしくはそれ以内を目安に各委員会は予算案を作成願います。

出席：高橋 今津 金谷 稲葉 鈴木（絵）
服田 星 高松 山下 和田 西山 岩月 清水

【2024年5月常務委員会】

日時：5月22日（水）19時 ZOOMとの並行開催

1. 支部長挨拶（高橋）

・先日、古道調査へ行ってきて東海支部からは清水さん 今津さん 稲葉さん 中野さん、花田さん（支部友） 事前調査を無事に終えることができた。
・全国支部懇談会（宿泊）は、全国から100人を超える人が集まり盛大に開催された。
・東海支部からは、高橋支部長、今津さんのみの参加でさびしい思いであった。
・総会も終わり、新年度体制になり支部としては会員数削減の食い止めと経費削減が2大テーマとなっている。
・各委員会の委員長さんは、活性化して委員会運営をよろしく願います。
・夏山フェスタでは効率よくPR集客して、支部員増強に向けた取組をお願いします。

2. 総務委員会（今津）

・支部員5月度 入会：2名 退会：1名
・総会は、5月12日（日）に開催され327名の総員に対して181名委任と出席があり、全議案について全会一致で可決された。
・古道調査には、東海支部から3パーティーその内2パーティー（単独）で大変であった。
・高橋支部長が単独での吉野から熊野大社は、後少しのところイベントがあり時間切れ。
・韓国登山隊と交流（6/14~6/16）のみあげとして、チタンカップ3,000円を1,000円から1,500円にして10個程度を登山隊へ。
・デジタルメディア委員会の後任について、鈴木絵美子さん、大槻さんで日程調整中。
・予算管理方法について、経費削減目的で今まで委員会費用を渡すのではなく、必要費用を事前に常務委員会で計ってもらいその都度費用を渡すことを検討した。
・予算管理方法フォーマット（当月申請金額、これまでの累積使用金額、所属委員人数）、毎月の委員会報告資料に記載をお願いしたい。
・当月申請の用途は、大きなものイベント講師費用など会計から支払いの場合で、雑費の申請は不要でよい。
・金額が大きな用途は、事前に常務委員会で計って承認を得てのち会計から支払う。
・群馬支部10周年記念行事へのお誘いあり、前田副支部長から後日案内あり。
・委員会の活性化バロメータをみるため、所属

委員人数も報告してほしい。

- ・ガイドブックの改訂、7月の支部報にてQRコード通知予定、体制（名簿）とルーム使用スケジュールのご協力をお願いします。

3. 愛知県山岳・スポーツクライミング連盟（鈴木）

- ・5月19日総会が行われた。一番大きな問題は、岳連の上位団体である日山協が令和4年に9,000万円の負債を出している。補填できないため今年度5,000万円の基金を募集へ。

- ・各県の岳連に基金募集のお願いがあつて、愛知岳連として対応を検討していく。

- ・今年度の行事計画として、去年からWEBでの勉強会を始めている。

- ・愛知岳連への登録は、支部10名、個人8名合計18名

4. 支部友委員会（金谷）

- ・山行は、雨での中止以外はすべて実施し問題なし。

- ・夏山フェスタが一番大きな話題になっている。

- ・オリエンテーションにいつも30名～40名ほど来る。

- ・夏山フェスタでは、少なくとも30名は勧誘したい。

- ・その他資料通り

5. 山行委員会（稲葉）

- ・支部長はじめ、山行リーダーの方は、夏山の山行計画の立案をお願いします。

- ・中学生萩原侑紀さんからの支部山行（8/24～8/25 赤岳真教寺尾根）申し込み対応。

- ・親権者の同意書、支部山行の進め方について協議。

- ・支部入会時点での承諾書は、入手済み。

- ・未成年者の支部山行への参加に関する同意書などについて、日本山岳会本部に問合せへ。

- ・未成年者の支部山行は、都度の同意書を取ることについて正副支部長にて継続協議。

- ・本人に経験、技量を確認し、山行委員会にて参加を判断することは了解された。

6. 亀の会（鈴木）

- ・運営会議は、5月24日に開催予定。

- ・実施済み山行、今後の山行予定は資料の通り。

- ・お祝い山行5月17日 傘山 26名参加（お祝い該当者4名 傘寿3名内2名参加）

- ・今後は、富士山山行を7月予定、4月から研修山行実施。

- ・富士山小屋が取れず、5号目同じ小屋2泊。

- ・7/16～7/18 富士山山行は、1,300m以上の標高差あり無理のない安全対策を徹底実施。

7. 猿投の森づくりの会（和田）

- ・定例作業は、資料通り

- ・第20総会は、2024年5月18日にて実施し今年度の活動計画はすべて承認された。

- ・特徴的な活動は、2024年10月27日記念集会を実施する予定（講師はこれから）。

- 2024年8月31日～9月1日 JAC 研究施設利用し、「上高地国有林の歴史と保全」について林野庁から講師を招き研修を実施する予定。

8. トレッキングクラブ（服田）

- ・資料通り活動している。

- ・夏山フェスタで支部友会員を勧誘する予定、運営側のスタッフとの兼ね合いで応援者人選中。

9. 支部報 178号（星）

- ・支部報7月1日発行予定、原稿締切日5月末

- ・新しい年度が始まりましたので、委員会報告をお願いしたい。

- ・遭難対策委員会からは、緊急連絡カードについての報告予定。

- ・熊野古道の調査山行も提出する予定。

- ・同好会についても写真、今年度の抱負などいただきたい。

- ・山行委員会は、委員会報告ではなくて別枠を設けてもらう。

10. アルパインクラブ（高橋）

- ・現在、会員数34名（半数は、活動中）

- ・自主的にバリエーションクライミングへ行けるようになり、かなりスキルアップしてきている。

- ・GWに春山合宿「西穂高沢バリエーション」を実施12名参加、レベル差がかなり激しい。

- ・レベル差に応じて、対応していきたい。

- ・現在、韓国山岳会交流会への参加者7名予定

- ・夏山フェスタでは、少数精鋭で1、2名入会できればと考えている。

11. 登山学校（服田）

- ・5月山行は資料通り、6月山行にて全カリキュラム終了。

- ・第8期、7月開校 受講生の申込み状況

- ・Aクラス定員18名 申込み12名（継続7名、支部友会員2名、一般3名、問合せ2～3名）

- ・Bクラス定員6名 申込み4名（継続4名）

- ・5月18日メルマガでA、Bクラスの募集発

信

- ・今年、夏山フェスタで受講生の勧誘を実施する。
- ・次期委員会メンバーである酒井さん、千葉さん、中島さんに、委員会に参加していただいた。

12. 自然保護委員会 (石原)

- ・資料の議事録通り、今年も5月10日猿投に入りカメラを設置。
- ・1月後の6月にカメラ回収し撮った映像分析、7月カメラ設置、8月カメラ回収を繰り返す。
- ・これから登山に良い時期になるので、今まで行った山で違うコース自然豊かな所を観察。

13. ボランティア委員会 (前田)

- ・家庭裁判所の少年2名(17歳、18歳) 加わり、5月31日にタンポポ登山を実施予定。
- ・家庭裁判所から東海支部の口座に手当入金については、取扱いを確認する。

14. 遭難対策委員会 (高松)

- ・登山届出状況は、資料の通り
- ・昨年と同様に、リスク先読み講習と検証登山を実施予定。
- ・委員会の技術向上のため、ビーコン使用の雪上訓練を鷲ヶ岳方面で実施予定。

15. 令和5年度6回写真展 (欠席)

- ・市民ギャラリー栄使用 15万円
- ・支部友会員および支部員の入会 10名必数

16. 技術向上委員会 (清水)

- ・新たに石田秀里さん、千葉泰丈さんが委員会に参加
- ・「登山計画の立て方+読み取り方」講習会について、登山学校とタイアップして開催する。
- ・日程は、11月24日午後、場所は支部ルームまたは、参加人数によりOMCビル。
- ・「リスク軽減の登山」を骨子とし、ハウツーにとどまらないリスク低減に役立つ事例などを交えた講習とする。
- ・7月17日の技術向上委員会で服田委員長に参加いただき成案とする。
- ・今年度、イグルー講習会と冬山でのファーストエイドについてセットで講習会を実施予定。

17. 東海学生山岳連盟 (山下)

- ・夏山フェスタ、ボランティアとして参加
- ・6月19日春の総会を支部ルームで実施予定
- ・参加大学は、南山、名大、名工、三重大に加えて岐阜大へ声掛けする。
- ・高橋支部長より、SNSなどでの情報リサーチをお願いしたいとのコメント。

18. 会計 (奥山)

- ・新年度の支部会費の請求が始まります。

19. 次回常務委員会

- ・6月26日(水) 支部ルームで開催
- 出席:高橋 今津 金谷 稲葉 服田 星 鈴木(慎) 鈴木(絵) 高松 石原 和田 西山 清水 山下 奥山

ル ー ム 日 誌

3月	
	大会議室 /小会議
1(金)	/古道塩の道
2(土)	登山学校机上講習会
3(日)	東海ユース
4(月)	支部友委員会
5(火)	県岳連
6(水)	青年部 /TNCC
7(木)	写真展実行委員会
11(月)	登山学校運営委員会
13(水)	山行委員会
14(木)	自然保護委員会/アルパインクラブ
18(月)	図書委員会・読図会
19(火)	ボランティア委員会/技術向上委員会
20(水)	東学連
21(木)	正副支部長会議 /総務委員会
22(金)	亀の会
25(月)	/支部友読図会
27(水)	常務委員会
28(木)	遭難対策委員会
4月	
1(月)	支部友委員会
2(火)	県岳連 /TNCC
3(水)	青年部
4(木)	写真展実行委員会
5(金)	/古道塩の道
8(月)	登山学校運営委員会
9(火)	支部友ミーティング
10(水)	山行委員会
11(木)	自然保護委員会/アルパインクラブ
15(月)	図書委員会・読図会
16(火)	ボランティア委員会
17(水)	東学連 /技術向上委員会
18(木)	正副支部長会議 /総務委員会
19(金)	亀の会
22(月)	/支部友読図会
23(火)	遭難対策委員会
24(水)	常務委員会
5月	

- 1 (水) アルパインクラブ(青年部) /TNCC
- 7 (火) 県岳連
- 8 (水) 山行委員会
- 9 (木) 自然保護委員会
- 12(日) 東海支部総会
- 13(月) 登山学校運営委員会
- 14(火) 支部友委員会
- 15(水) 東学連 /技術向上委員会
- 16(木) 正副支部長会議/総務委員会
- 20(月) 図書委員会・読図会/正副支部長会議
- 21(火) ボランティア委員会
- 22(水) 常務委員会
- 24(金) 亀の会
- 27(月) /支部友読図会
- 28(火) 遭難対策委員会

会員異動

- 入会:** 大槻峻介(17268) 神戸志摩(17265)
 鈴木良明 荒川章子
 安藤弘直(17165)
- 退会:** 三嶋 正(15272) 寫田ちゑみ(15060)
 小山あかね(16297) 玉木恵(15748)
 川合鋁一(13885) 杉浦節子(16923)
 加賀サユリ(16784) 柳原徳太郎(11433)
 水野起己(11292)



I N F O R M A T I O N

【総務委員会からのお知らせ】

ゴザフェス2024

△東海学生連盟 ゴザフェスの案内

場所：鈴鹿山脈 御在所岳

日程：9月28日(土)、29日(日)

28日体験クライミング、藤内小屋にて交流会

29日様々なルートに分かれて山頂を目指す

連絡先：tougakuren2022@gmail.com

または Twitter([@tsmf_jactokai](https://twitter.com/tsmf_jactokai))、

Instagram([tokai_climbing_students](https://www.instagram.com/tokai_climbing_students))のDM



【登山学校運営委員会からのお知らせ】

△登山学校第7期修了式、第8期入校式開催のお知らせ△

登山学校運営委員会では、7月6日(土) OMC 4階講堂にて

第7期(2023年度)修了式、第8期(2024年度)入校式をとり行います。

第8期は第7期と同じAクラス(初級)3、Bクラス(中級)1の

計4クラスで開校します。「装備」「気象」など机上講習の中には生徒以外の方も受講可能な講座もあります。ぜひご参加下さい。

登山学校運営委員会

委員長 服田康宏

【支部刊行物編集委員会からのお知らせ】

60周年記念事業として「東海山岳12号」を発行しました。

残部があります。

1冊3,000円です。

購入を希望される方は、支部刊行物編集

委員会の委員に申し

込みをお願いしま

す。メール等でのお

問い合わせは

khoshi@katch.ne.jp

星 一男までご連絡

ください。



東海山岳 No12

編集後記

夏山フェスタの会場では、東海支部のコーナーが今年も大賑わいでした。スタッフとして参加された皆様、ありがとうございました。

今号はご覧の通り33ページとなりました。毎号寄稿をいただきながら、編集都合により次号に掲載となる事態が生じています。編集担当として感謝の念でいっぱいです。

支部報編集委員会 星 一男

SINCE 1975
mont-bell

地球と遊ぶ、時間をつくろう



登山用品は、お近くの「モンベルストア」へ!

名古屋栄店 052-228-1840

豊橋店 0532-21-8650

長久手店 0561-64-2605

ららぽーと名古屋みなとアクルス店 052-659-2708

最新情報は
こちらから



株式会社 **モンベル** www.montbell.jp

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004
www.nygs-office.com

久屋大通駅
徒歩1分

「東海支部報」では、
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは

jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
デザイン、インテリアやセキュリティなど
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 **Honesty**

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457



印刷全般

ご相談ください

(有) **アジマプリント**

〒462-0015名古屋市中区中味鏡二丁目438番地

TEL(052) 901-1256

FAX(052) 901-2278

E-mail : ajimaprint@giga.ocn.ne.jp